

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 フルーツバスケット		
○保護者評価実施期間	2025年10月日		～ 2025年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数) 42名
○従業者評価実施期間	2025年10月日		～ 2025年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の連携がしっかりと取れており、情報共有が毎日開所前と退所後に行われていること。	職員間でも日々積極的にコミュニケーションを取り合い、気になることがあったら都度相談し合える環境を整えている。 また、支援内容や子どもたちの様子について、日常的に情報共有を行い、それをもとに具体的な支援方法を検討・実行するようにしている。	今後も継続し、より子どもたちに寄り添った支援を提供できるよう努めていく。
2	プログラムの工夫	毎月、午前・午後や曜日ごとに課題を出しながら適切なプログラムを決めています。 同じ内容でも、個々に合わせ難易度や援助の度合いを話し合いながらプログラムを決定している。	ひとりひとりが楽しんで活動できるようプログラムの内容の幅を広げていきたい。
3	言語面や運動面での課題を持つ児童への個別療育	言語聴覚士、作業療法士を配置して保護者同伴で行っている。	特性や発達段階に合わせた療育ができるように、保護者と情報共有を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会や保護者会などの交流、きょうだい向けイベントなどのきょうだい支援のなさ。	日祝日がお休みのため、日中の支援時間中での開催になる場合に、職員の確保や場所の提供が難しい部分がある。 また、参加の声と、そうした必要がないというお声が共存していること。	きょうだい向けイベントにかんして、まずは支援プログラムに組み込みながら、クリスマスプログラムと一緒に過ごせるイベントづくりとして、今年度の支援の振り返りと反省点、人員の確保などに取り組んでいく。
2	バリアフリーになっていない箇所がある。	構造上仕方ない部分ではあるものの、今以上の安全配慮を行う必要がある。	こども・保護者への声掛け、手をつなぐことの徹底のほか、安全配慮を再検討する。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定していますが保護者への周知が不完全である。 個別利用のみの場合訓練に参加できていない。	保護者同伴の個別利用のみだと時間に限りがあり避難訓練の実施が難しい。	各マニュアルの周知方法の検討する。 訓練方法を再検討する。